

# 平成28年度上越市国語部 活動報告

部長 中野 英康

## 1 研究主題 「国語の学力を高める授業の研究」

### 2 主題設定の意図

今年度の国語部の研究は、昨年に引き続き「国語の学力を高める授業の研究」である。子どもの学力向上のために、どのような工夫をすればよいか？ このことを授業で明らかにしていく。その視点として、

- できないことをできるようにするための工夫。
  - 分からないことを分かるようにするための工夫。
  - 学んだことを次の学習、次の活動へ生かせるようにするための工夫。
  - 授業が楽しい。明日の授業が楽しみだと思わせる工夫。
- このような視点を手掛かりにして、授業改善を図るための実践・研究を推進する。

### 3 研究の概要

11月11日(金)、上越国語教育連絡協議会、上越市立教育センターとの共催で研究会を実施した。前半は小学校のスーパーティーチャーの小川高広教諭の授業を参観し、その後、協議会を行った。

### 4 研究の実際

授業者：上越市立高志小学校 小川 高広 教諭

#### (1) 単元について

○単元名 第5学年 「レイチェル先生が教えてくれたこと」(教材名「レイチェル＝カーソン」学校図書)



#### ○単元の目標

- ・伝記が筆者の意図に応じて書かれていることを捉え、文章について自分の考えをもつ(読むこと)
- ・被伝者の生き方、考え方と今後の自分の生き方を結びつけて考える。(読むこと)

#### ○単元構成上の工夫

- ・学習課題設定の工夫
- ・主体的な学びを組織する
- ・基礎基本事項を習得、活用する
- ・言語活動の充実

#### (2) 成果と課題

スーパーティーチャーの卓越した授業を参観し、協議を行った。小川教諭の温かな表情、児童をやる気にさせる語り、分かりやすい発問・指示等、教師の指導力の確かさを、授業参観によって学ぶことができた。

授業の中心は、「3つの伝記を読み比べ、どの伝記が好きかを発表する」活動である。子どもたちは選んだ伝記を紹介し、なぜ選んだか、その理由を伝記の特徴や筆者の意図を根拠に伝え合っていた。日々の授業で丁寧かつ個々に寄り添った指導をしているため、子どもの発表は堂々としており、説得力があった。

このように、子どもの実態に応じた言語活動を設定し、分かりやすい授業構成、誰もが活躍できる授業形態、確かな指導技術等を学ぶことができた公開授業だった。

来年度は3年続いている研究主題を検討する。国語の授業をする上で、何が一番切実な課題なのかを早急に検討し、日々の授業と研究が常につながっていくような取組にしていきたい。